

『アフリカ開発銀行による産業人材育成への貢献』

アフリカ開発銀行

人間開発局 教育科学技術部門
シニアエデュケーションエコノミスト

武居 桂子

1. はじめに

私がアフリカ開発銀行(AfDB)に所属してから、ほぼ5年の年月が経ちました。アフリカにおける産業人材育成に関する案件は、非常に深刻に捉えられており、アフリカ開発銀行の教育部門にも、アフリカ政府より多くの案件が日々殺到している状態です。

日本とアフリカの友好関係も、2013年5月に行われた TICADV を機に、より深まり、安倍首相も“今後、アフリカを、ビジネスパートナーと見なし、そして共に歩んでいきたい”と宣言された様に、多くの日本企業が、現在、アフリカに興味を抱いています。

このような中で、特に注目を浴びているのが、アフリカにおける産業人材育成です。現在、我々が直面している問題は、アフリカ各国の現地の市場、そして需要に見合った人材を供給する為のサポートがいかに出来るかということです。教育部門として、それぞれの各国のニーズに応じ、どのように質のよい教育プログラムやプロジェクトを行うかということに、日々試行錯誤しながら格闘しております。

アフリカ開発銀行に入社をして、アフリカの教育現場に立ち、アフリカ各国の現場を見、多くの問題を知る事で、日本の教育現場の質の良さ、そして日本の学校がいかに恵まれた環境にあるかということに身を染みて感じさせられます。

しかしながら、アフリカの子供たちの学問に対する積極的な姿勢、そして学ぶ事そのものに対する感謝、又、彼らの真剣な姿勢や眼差し、



笑顔には、常に心を打たれます。アフリカの子供たちには、アフリカの将来を担う多くの責任があり、社会貢献、経済発展に対する意気込みには、並々ならぬものを感じさせられます。

このようにして、アフリカの子供たちが如何に、自分自身の能力を活かし、アフリカの産業発展に貢献するかは、ある意味、我々がどれだけ意義のある仕事を教育現場に提供出来るか否かにもよるわけであります。

私自身は、職員として、今までに、南アフリカ、ナミビア、ウガンダ、ルワンダ、ケニア、タンザニア、エチオピア、セネガル、ブルキナファソ、モロッコ、チュニジア、ガーナ、ナイジェリア、ザンビア等、多くの教育現場を経験してきました。しかしながら、全ての教育現場に共通すること、それは厳しい環境の中でも、教師たちの生徒に対する熱意、そして献身的な姿が常に存在しているということなのです。

アフリカでの、産業人材育成に投資する意義というのは、大変重要なことであり、経済発展の為の基礎となることは間違いありません。また、アフリカ開発銀行では、特に、銀行の Ten Years' Strategy を基に、教育の分野では高等教育、職業訓練教育、科学技術教育に準じたプログラム、プロジェクトが今後とも盛んに行われる予定です。

アフリカ開発銀行での教育部門に関する協力活動は、主にオペレーション (Operation)、分析文書の作成 (Economic Sector Work)、そしてワークショップや会議を開催することにあります。尚、途上国や他の国際機関、民間企業とも提携を結び、仕事を推進しています。

2. 教育プロジェクトタスクマネージャーとして

現在、私がプロジェクトタスクマネージャーとして関与している仕事は主に、1) タンザニアの職業訓練教育に関するオペレーションプロジェクト (Support to Technical Vocational Education and Training and Teacher Education in Tanzania)、そして 2) アフリカの持続可能な開発のための教育に関するオペレーションプロジェクト (Education for Sustainable Development in Africa: ESDA) です。その他、タンザニアにおける農業教育関連の分析文書の作成や、アフリカ全土による科学技術高等教育に関する国際会議の準備等、幅広い分野で活動をしています。

アフリカ教育プロジェクトタスクマネージャーとして任命され、アフリカ政府 (特に、文科省、財務省、科学技術省等) と緊密にコミュニケーションを取り、国のニーズに基づいた、質の良い教育を提供する事は簡単なことではありません。又、私的企業とも密接に提携を取り、いかに社会のニーズに合わせたプロジェクトを構成するかは、多くの労力を必要とされます。

これらの、プロジェクトを白紙の状態より立ち上げるには、およそ、約 2 年越しの苦労を必要とされます。それからプロジェクトが銀行に任命され、実際に遂行され、運営という任務が任されるのです。その期間は、一つのプロジェクトについて約 3-5 年必要され、運営の際には、頻繁な査定と監査も必要とされます。

プロジェクトマネージャーとして常に心がけなければいけないことは、どんな困難がある

Page | 2

うともプロジェクトを成功させるという強く明確な姿勢と責任感です。更に、忍耐力、柔軟性、持続性、そして、クライアントのニーズを良く聞き、ニーズに合わせたプロジェクトを立ち上げる構成能力、分析能力が大切で、リスクマネジメント能力も必要とされます。

しかしながら、最も大切なのは、リーダーシップです。これは、どの分野にも関係しますが、プロジェクトを運営する際に、チームが必要であり、如何に個々のチームメンバーの最高の能力を引き出し、それを統合し、運営をしていくか、そのリーダーシップ能力が大変必要とされます。光栄にも、私のタンザニアのプロジェクトは 2014 年の 4 月にアフリカ開発銀行のボードで承認され、その情報も一般公開されました。[\(該当ページ\)](#)

3. 教育によるアフリカと日本の絆

アフリカ開発銀行の日本人職員として、自分の専門分野 (教育部門) を活かしながら、日本とアフリカの絆を深める任務も務めております。特に私の率いる “アフリカの持続可能な開発のための教育に関するオペレーションプロジェクト (Education for Sustainable Development in Africa: ESDA)” では、日本の大学とパートナーシップを結びながら、そして日本の教授や研究者のサポートを得ながら、アフリカの持続可能な開発のために必要不可欠とされる高等教育、特に、都市開発、農村開発、鉱山開発分野におけるカリキュラム、指導方法、インターンシップの質を高める研究をしています。

尚、2013 年、6 月、アフリカ開発銀行は、教育部門を先頭に東京に本部を拠点とする、国連大学とも Memorandum of Understanding (MoU) を TICADV の際に結ぶことに成功致しました。これを機に、アフリカの持続可能な教育の貢献に対する協力宣言も致しました。そして、日本のみならず、アジアとアフリカの絆を深めるためにも、“Next Generation Researchers:

NGR” というプロジェクトの運営も始めております。このプロジェクトのコンセプトは、アジアとアフリカのヤングリサーチャーのグループによるアジアとアフリカにおける知識の交流、交換そして、新しい研究領域の開発と実践です。このプロジェクトにより、アジアとアフリカのより密接な関係を築くことを目標としています。

4. おわりに

アフリカ開発銀行には当初、ヤングプロフェッショナルとして2年間任務を行い開発銀行の運営全体を勉強する機会を与えられました。これらの経験を経て、アフリカ全土には大変多くの産業発展に対するエネルギーと力が備わっていると実感しております。それは、アフリカ全土は豊富な人材と天然資源に恵まれているからです。

このような環境の中で、我々、アフリカ開発銀行が任されている仕事は山ほどあり、尚、我々には多くの質の良い仕事を運営していくチャンスが沢山あります。アフリカ大陸には多くの希望と夢が備わっており、その将来を支えていくアフリカの子供たちの教育、人材育成には重要な責任と期待が課せられていますし、いかにこの機会を上手く運営していくかは、我々のプロジェクト運営能力、そしてアフリカ開発に対する情熱そのものが根底にあることが前提ではないでしょうか。

アフリカで仕事を行うことは簡単なことではありません。心身共に健康で、常に力強い目標を持って仕事を地道に運営していく忍耐力と持続性が必要とされます。思い通りの結果がプロジェクトによって出ない事も多くあり、挫折もありますが、アフリカで仕事をしていることで、私自身が実際に、日々、アフリカから学んでいることは私が仕事で貢献させて頂いている以上のものです。アフリカでの仕事は、多文化共生という面からでも、とても良い人生経験をさせて頂いております。

今後とも、勉強を重ね、教育に関する良い仕事出来るよう、日々精進していきたいと思っております。

尚、本寄稿文は、その協力メンバーであるAfDB アジア代表事務所の依頼により筆者が個人的な見解に基づき作成したもので、AfDB を代表するものでないことを付記いたします。

◆これら AfDB の活動、展望についてはホームページをご参照ください。

www.afdb-org.jp/